

日本アドバンスロール

日本アドバンスロール（JAR、本社：茨城県ひたちなか市）は、鍛造ロール専業メーカーとして、本社工場において多段式圧延機から6段のタンデム圧延機まで、冷間圧延用や熱間圧延用のワーカークロールや中間ロール、バックアップロールの設計・開発・製造・販売・保守などを手掛けている。

「当社は鍛造ロールメーカーであり、專業である優位性を生かしている。製造現場をはじめ営業、資材、総務、経理などを含めた従業員がロール製造に関わるエキスペートとして、総力を結集して事業に取り組んでいる。

磨く現場力

製鋼工程ではインゴット（鋼塊）を製造。電気炉2基、取鍋精錬炉2基でサイズは最大90tまで

年間製鋼重量は1万4500t。クロールおよび中間ロールは、エレクトロスラグ再溶解（ESR）装置3基20t×2基、15t×1基で製造を実施しており、国内ロールメーカーの中では最大級の保有台数を誇る。鍛造プレスも6000t水圧プレス、2000t油圧プレスの2基体制で行っている。

0t水圧プレス、2000t油圧プレスの2基体制で行っている。



出鋼の様子

ロールの鋼種も30種類以上あり、現在も開発を続けている。ロールは他の鍛鋼品に比べて硬度が高くて焼き入れ層が深いという特徴があり、創業から中周波・低周波を用いた設備で技術を磨いてきた。機械加工も高硬度切削技術を磨いている。ロールの内部品質は超音波による非破壊検査で確認する。「その管理値は、長年においてお客様とのトラブル解決によって得られた数値である。お客様のニーズも変わることにより、品質保証技術のプラスアップも図っている」（同）といふ。

【製品とその特長】

年間の鍛造重量は約9700t。ロール本数換算ではゼンジミアミル用など小型ロールが約920本、ワーカークロールや中間ロールが全体の中型ロールは約1100本、熱間圧延用ワーカークロールとバックアップロールが約120本に相当する。

日立製作所（現ブライメタルズテクノロジー）にて設計製造された圧延機向けに供給を続けてきた長年の歴史があるので、国内の高炉、電炉、

6000t水圧鍛造プレス



技術光るロール30種超

波による非破壊検査で確認する。「その管理値は、長年においてお客様とのトラブル解決によって得られた数値である。お客様のニーズも変わることにより、品質保証技術のプラスアップも図っている」（同）といふ。

【注力している施策】

安全衛生委員会など他社の災害事例、自社の過去事例を参考に会議やミーティングを繰り返した結果、無事故・無災害を3年間継続中。「この地道な

活動した新中期経営計画では「若手が主役に、活躍する企業となる」（同）と成に取り組んでいる。

△会社名＝日本アドバンスロール
△本社所在地＝茨城県ひたちなか市堀口832-2
△従業員数＝188人（24年6月現在）
△売上規模＝6億6000万円（24年3月期決算）
△生産数量＝製鋼重量1万4500t、鍛造重量9700t（24年3月期、年間ベース）

【将来展望】

東京貿易グループの

東京貿易マテリアル

が、23年9月1日付で

JARの発行済み全株

式を投資ファンドから

ながっている。

（濱坂 浩司）

（濱坂 浩司）</